

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192000107		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター小樽 (かすべ)		
所在地	北海道小樽市稲穂5丁目11番24号		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0192000107-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR小樽駅より徒歩10分程度と交通の利便性に優れ、近隣には大型スーパーや公園、小学校などの公共施設があり環境に恵まれた中に開設されたグループホームです。
 管理者、職員はホームの理念「我が家のようにここで暮らすことがあたりまえと思えるような環境作り・地域に溶け込みほほえみあふれる人と人との関わりを持てる様支援する」をモットーにケアサービスの質の向上に取り組んでいます。又、レクリエーションや環境美化、献立、リスク、ケア、感染予防などの委員会を立ち上げ全ての職員が参加して創意工夫し定期的に段階に応じた職員の研修を実施しています。
 利用者の思いや意向を尊重してレストラン等で好みの食事や買い物、懐かしい場所を訪れる等、外出の機会を作っています。又、定期的に音楽療法や腹話術のボランティアを招き交流を図っています。
 年に最低2回の避難訓練を行い救命士の講義を聞く機会を持ち全職員が危機意識を持てるよう取り組む機会を設けています。
 定着している年間行事が多く、利用者の楽しみになっています。特に大晦日のグランドパークホテルから取り寄せているおせち料理はとて豪華と大好評をいただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成25年3月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<戸外に出かける機会の確保>
 一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣スーパーへ毎日出かけて食材の買い物や散歩等戸外に出かけられるよう支援している。また、レクリエーション委員が中心となって回転寿司やマイカル、デパートでの軽食や夏祭り、七夕祭り見物など普段では行けないような場所への訪問支援をしている。

<働きやすい就業環境の整備>
 職員個々の努力や実績を把握し、日常業務を通じてコミュニケーションを取りながらモチベーションの維持・向上に努め、職員が永く勤務できるように離職を防ぎ、職員の定着率は安定している。また、職員間の意思疎通が良く見受けられ明るく、チームケアに取り組んでいる様子が伺えた。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続ける為のサービスとして、ホーム独自の理念を作り職員間で共有している。	事業所独自の理念をつくり上げ、見やすい場所に掲示し、内部研修会やカンファレンス時に話し合い、職員間で共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地元の音楽療法士、腹話術師等のボランティアを受け入れ交流に努めている。 又、毎日のように近隣のスーパーに買い物に出かける事により店員と顔馴染みになっておりホームまで食材の配達にも出向いて貰っている。	コミュニティーセンターでの社交ダンスの見学に出かけたり、音楽療法への参加や腹話術等のボランティア、ヘルパー実習生の受け入れ、ホーム主催の夏祭りの開催を地域に案内するなど地元の人々との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームには介護支援専門員、認知症ケア専門士、認知症サポーター、介護福祉士等の資格を有する職員があり、民生委員の方の協力を頂き「介護」や「介護保険」に関わる悩み、相談を受けさせて頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会ではホームの行事に参加して頂いたり、取り組みの報告を行い理解を深めて頂いている。色々な意見や要望を貰い質の向上に繋げていくよう努力している。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、利用状況や事故防止への取り組み、地域との連携等について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談、助言を求める事が多く連携は取れておりサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者及び包括支援センター職員とは、研修会参加や日常業務を通じて協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は何が身体拘束に当たるかを正しく理解しており、玄関の施錠、ベッド柵を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止の法人内研修や内部研修を通じて、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームでは定期的に高齢者虐待・身体拘束防止の勉強会を行い全職員に正しく理解してもらった上でケアに当たって貰っている。事業所内での虐待が見過ごされないようお互いに注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度の勉強会は行っており理解は出来ているが具体的な活用までには至ってない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけで十分理解できなかった部分についてはいつでも質問して頂けるよう説明し対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、来訪時に意見、要望を聞きだす努力をしている。又、玄関に意見箱を設置し運営に反映するよう努めている。	管理者及び職員に苦情や意見を言い表せるように意見箱を設置している。また、苦情申し出先の啓発ポスターを掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ホーム会議を開催し職員の意見、提案を聞き出す機会を設け反映させている。	就業環境の整備に心掛け、職員の離職率は低く安定している。また、毎月のホーム会議や日常業務を通じてコミュニケーションが良くとられている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況に応じ資格手当、精勤手当がつけられる。時給者は勤務実績に応じてキャリアアップ制度が設けられ昇給のチャンスが与えられている。労働時間は適正に管理されており残業、休日出勤は殆どない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期ではあるが管理者研修、リスクマネジメント研修を受ける機会が確保されている。新入社員には新卒介護職フォローアップ研修、採用時研修の機会が設けられている。ホーム内で定期的に勉強会を開催しスキルの向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修活動に参加し他施設との交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの強化に努め不安の軽減を図り希望に添えるよう本人から話を聞きだしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを多く設け、協力を頂きながらご本人が安心して生活できるよう全職員が心がけている。ご家族が求めている事を真摯に受け止めケアに活かす努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの強化に努め必要としている支援を見極め対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的な姿勢である事を理解し、尊厳を大切にしながら尊敬の念を持って接する。出来る所を生かし出来ない部分はさりげなくフォローするよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪の都度、ホームでの様子を伝えたり、外出、外泊、面会の時間を多く持ってもらえるよう働きかけている。遠方のご家族には手紙、電話等でご本人の様子をお知らせしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には親しみ使い慣れた家具や家族の写真を持ってきて頂き会話の中にその話題を取り入れていく。外出のレクリエーションで馴染みの場所、思い出深い場所に向き昔の事を思い出すきっかけ作りをしている。	レクリエーション委員会で夏祭りや七夕祭りへの参加や回転寿司などの外食の計画を立て実践している。また、毎日食材や日用品の買い出しに出かけるなど馴染みの場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方は近い席にして会話を多く出来るようにしている。孤立しがちな方は職員がまめに声をかけ会話の中に入りか関わりが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の介護施設に移り退居した場合は時々面会に行く。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の個々の要望に応じた対応を心がけている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望をセンター方式を活用して把握し、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントである程度の情報は得るようにしている。生活歴の細かい点は会話の中から得ていくようにしており職員全員で情報を共有するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の心身の状況は記録や職員同士の気付きを共有することで把握するようにしている。有する力に合った出来る事を見つけ行って頂いている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度カンファレンスを開きモニタリングを行っているが、状態に変化があった時は必要に応じて行い都度見直しをかけている。時間の取れる家族には参加して頂き意見、希望を聞き、参加不可能な家族には前もって電話で状態の報告を行い希望を取り入れて介護計画に反映させている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見やカンファレンス等で職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の様子がより解るような記録を実践している。都度モニタリング、再アセスメントを行い見直しを行っている。又、食事量、水分量、排泄、バイタル、睡眠時間の記録をとっておりDrへの連絡に役立っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況把握に努め、新たなニーズに対し柔軟な支援やサービスに対応するよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が運営推進会に参加している。月に一度音楽療法の講師を招き心身の活性化を図っている。外部徘徊があった時の為に警察との連携を取っており、年2回の避難訓練には救命士より講習を頂いている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの入居者のかかりつけ医の往診が月に1~2度あり定期的に検査を行い健康管理を行っている。都度医師、看護師と連絡を取り入居者に変化がみられた時は速やかに連絡し指示を頂いている。	受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や訪問看護の利用で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回訪問看護が入っており職員はその都度入居者の変化で気になった事を相談している。必要な時は受診に結びつけ早めの対応を心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を取り情報交換を密に行い早期退院できるように取り組んでいる。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の事を考え早い時期から本人、家族の希望を聞き協力医の協力を得ておく。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応マニュアルを作成しており職員はマニュアルに添って対応している。避難訓練時に救急救命法やAED操作方法の講義を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。地域の方々も参加していただき協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、夜間を想定した火災避難訓練を近隣住民も参加して年2回実施している。また、非常時の食料の備蓄やスプリンクラー・火災通報装置・火災報知機等の設備を完備し、定期点検も実施している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や威圧的な態度にならない様職員の教育を徹底すると共に「虐待、身体拘束」の勉強会を行っている。常に尊厳を守り、誇りやプライバシーを守りながら接している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように、身体拘束廃止や高齢者虐待について内部研修を実施し、職員間に周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の認知能力に合わせた説明を行い、ご本人が納得した上で自己決定に繋がるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の尊厳を守り一人ひとり個々のペースに合わせ過ぎてもらえるよう支援している。外出、入浴は出来る限り希望に添い無理強いはない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容の声かけ、介助を毎日行っている。外出時の洋服選びなどの自己決定のお手伝いをしたり、ほぼ定期的に理美容室に出向いたりホームにきてもらったりして身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し嫌いなものは差し替えて提供している。嚥下の状態に合った形態にして食べやすい工夫をしている。食事の準備、片付けはその方の力や希望に応じてしている。	一人ひとりの力や好みを把握しながら、献立作りや食材に配慮し、時には、回転寿司やファミリーレストランでの外食や新年のおせち料理の提供をしている。また、水分や食事の摂取量を把握し、支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方が必要とする食事量、水分量を把握する為医師、看護師から指示を頂き、その方に合った食事形態、好みの飲料等で確保できるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声を掛けてうがいや歯磨きをして頂き口腔内の清潔を保つよう取り組んでいる。夜間は義歯を外し義歯洗浄剤に浸し汚れを落としている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用が減るよう一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄チェック表で確認しながらトイレへの促しを行っている。	排泄パターンを排泄チェック表で確認しながらトイレで排泄できるように声かけや促しをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い水分や食事量のチェックを行っている。便秘の原因や及ぼす影響を理解しスムーズな排便があるよう水分、食事に配慮すると共に頑固な便秘は医師に相談し下剤を処方して頂いている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	余裕を持ち前もって声を掛け入浴をして頂いている。気分が乗らない方は無理強いせず別の日にお誘いしている。	入浴が楽しみなものとなるように一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて週2~3回を目安に入浴支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安な気持ちを持っている方にはしっかりと話を聞き不安を取り除いてから休んで頂くよう支援している。又、昼寝を希望される方、必要な方には適度な時間休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、職員同士で確認を行ってから間違いの無いよう服薬して頂いている。目的、副作用、用法、用量については都度職員に伝え周知している。服薬不可能な状態の時は医師の指示の下時間をずらして服用又は破棄している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に自室の掃除、食器拭きはほぼ毎日のように行っている。自宅にいる時から続けている健康食品を継続するお手伝いや大好きな歌手のCDをかけ楽しい時間を過ごしていただくよう計っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方はほぼ毎日のように近隣のスーパーに食材の買い物に出かけている。気候の良い時は近隣を散歩したり、外食やスイーツアー、観光名所めぐりのレクリエーションを実施している。又、毎月外泊されたり家族と温泉旅行や外食に出向かれる方もいる。	一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣スーパーへ毎日出かけて食材の買い物や散歩等戸外に出かけられるよう支援している。また、レクリエーション委員が中心となって回転寿司やマイカル、デパートでの軽食や夏祭り、七夕祭り見物など普段では行けないような場所への訪問支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の入居者は現金を所持していないが少数の入居者は所持しておりご本人が買い物したいと希望されたときに使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から荷物や誕生日のプレゼント等が送られてきた時など電話や手紙で感謝の気持ちを伝えられるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔にする事を心がけ入居者に不快感を持たせないように配慮している。トイレは3箇所のうち2箇所はリビングから離れており静かに利用できる。リビングには花を活けたり壁に季節の飾りつけをしている。その都度行事の写真を貼りかえて楽しんで頂いている。	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。また、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけ等で本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの片隅や廊下の所々に椅子やテーブルを置き好きな場所で寛いだり歓談できるスペースを設けている。和室もリビングに隣接しており自由に使って頂いている。又入居者の状態を見て過ごしやすくなる席替えの工夫もしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や物を持ち込んで頂き、居心地の良い空間になる様努めている。入居者が不便を感じている様子が見られたら家族に相談し用意して頂いている。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、安全に配慮した整理整頓に努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日使うものは決められた場所に置き使用して頂く。又、安全に行動できるよう常に整理整頓を心がけている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192000107		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター小樽 (はっかく)		
所在地	北海道小樽市稲穂5丁目11番24号		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0192000107-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR小樽駅より徒歩10分程度と交通の利便性に優れ、近隣には大型スーパーや公園、小学校などの公共施設があり環境に恵まれた中に開設されたグループホームです。
 管理者、職員はホームの理念「我が家のようにここで暮らすことがあたりまえと思えるような環境作り・地域に溶け込みほほえみあふれる人と人との関わりを持てる様支援する」をモットーにケアサービスの質の向上に取り組んでいます。又、レクリエーションや環境美化、献立、リスク、ケア、感染予防などの委員会を立ち上げ全ての職員が参加して創意工夫し定期的に段階に応じた職員の研修を実施しています。
 利用者の思いや意向を尊重してレストラン等で好みの食事や買い物、懐かしい場所を訪れる等、外出の機会を作っています。又、定期的に音楽療法や腹話術のボランティアを招き交流を図っています。
 年に最低2回の避難訓練を行い救命士の講義を聞く機会を持ち全職員が危機意識を持てるよう取り組む機会を設けています。
 定着している年間行事が多く、利用者の楽しみになっています。特に大晦日のグランドパークホテルから取り寄せているおせち料理はとても豪華と大好評をいただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年3月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続ける為のサービスとして、ホーム独自の理念を作り職員間で共有している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地元の音楽療法士、腹話術師等のボランティアを受け入れ交流に努めている。又、毎日のように近隣のスーパーに買い物に出かける事により店員と顔馴染みになっておりホームに配達にも出向いて貰っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームには介護支援専門員、認知症ケア専門士、認知症サポーター、介護福祉士等の資格を有する職員があり、民生委員の方の協力を頂き「介護」や「介護保険」に関わる悩み、相談を受けさせて頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会ではホームの行事に参加して頂いたり、取り組みの報告を行い理解を深めて頂いている。色々な意見や要望を貰い質の向上に繋げていくよう努力している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談、助言を求める事が多く連携は取れておりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は何が身体拘束に当たるかを正しく理解しており、玄関の施錠、ベッド柵を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームでは定期的に高齢者虐待・身体拘束防止の勉強会を行い全職員に正しく理解してもらった上でケアに当たって貰っている。事業所内での虐待が見過ごされないようお互いに注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度の勉強会は行っており理解は出来ているが具体的な活用までには至ってない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけで十分理解できなかった部分についてはいつでも質問して頂けるよう説明し対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会や家族会、来訪時に意見、要望を聞きだす努力をしている。又、玄関に意見箱を設置し運営に反映するよう努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ホーム会議を開催し職員の意見、提案を聞き出す機会を設け反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況に応じ資格手当、精勤手当がつけられる。時給者は勤務実績に応じてキャリアアップ制度が設けられ昇給のチャンスが与えられている。労働時間は適正に管理されており残業、休日出勤は殆どない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期ではあるが管理者研修、リスクマネジメント研修を受ける機会が確保されている。新入社員には新卒介護職フォローアップ研修、採用時研修の機会が設けられている。ホーム内で定期的に勉強会を開催しスキルの向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修活動に参加し他施設との交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの強化に努め不安の軽減を図り希望に添えるよう本人から話を聞きだしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを多く設け、協力を頂きながらご本人が安心して生活できるよう全職員が心がけている。ご家族が求めている事を真摯に受け止めケアに活かす努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの強化に努め必要としている支援を見極め対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的な姿勢である事を理解し、尊厳を大切にしながら尊敬の念を持って接する。出来る所を生かし出来ない部分はさりげなくフォローするよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪の都度、ホームでの様子を伝えたり、外出、外泊、面会の時間を多く持ってもらえるよう働きかけている。遠方のご家族には手紙、電話等でご本人の様子をお知らせしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には親しみ使い慣れた家具や家族の写真を持ってきて頂き会話の中にその話題を取り入れていく。外出のレクリエーションで馴染みの場所、思い出深い場所に出向き昔の事を思い出すきっかけ作りをしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方は近い席にして会話を多く出来るようにしている。孤立しがちな方は職員がまめに声をかけ会話の中に入りか関わりが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の介護施設に移り退居した場合は時々面会に行く。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の個々の要望に応じた対応を心がけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントである程度の情報は得るようにしている。生活歴の細かい点は会話の中から得ていくようにしており職員全員で情報を共有するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の心身の状況は記録や職員同士の気付きを共有することで把握するようにしている。有する力に合った出来る事を見つけ行って頂いている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度カンファレンスを開きモニタリングを行っているが状態に変化があった時は必要に応じて行い都度見直しをかけている。時間の取れる家族には参加して頂き意見、希望を聞き参加不能な家族には前もって電話で状態の報告を行い希望を取り入れて介護計画に反映させている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の様子がより解るような記録を実践している。都度モニタリング、再アセスメントを行い見直しを行っている。又、食事量、水分量、排泄、バイタル、睡眠時間の記録をとっておりDrへの連絡に役立っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況把握に努め、新たなニーズに対し柔軟な支援やサービスに対応するよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が運営推進会に参加している。月に一度音楽療法の講師を招き心身の活性化を図っている。外部徘徊があった時の為に警察との連携を取っており、年2回の避難訓練には救命士より講習を頂いている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの入居者のかかりつけ医の往診が月に1~2度あり定期的に検査を行い健康管理を行っている。都度医師、看護師と連絡を取り入居者に変化がみられた時は速やかに連絡し指示を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回訪問看護が入っており職員はその都度入居者の変化で気になった事を相談している。必要な時は受診に結びつけ早めの対応を心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を取り情報交換を密に行い早期退院できるように取り組んでいる。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の事を考え早い時期から本人、家族の希望を聞き協力医の協力を得ておく。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応マニュアルを作成しており職員はマニュアルに添って対応している。避難訓練時に救急救命法やAED操作方法の講義を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。地域の方たちも参加していただき協力体制を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や威圧的な態度にならない様職員の教育を徹底すると共に「虐待、身体拘束」の勉強会を行っている。常に尊厳を守り、誇りやプライバシーを守りながら接している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の認知能力に合わせた説明を行い、ご本人が納得した上で自己決定に繋がるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の尊厳を守り一人ひとり個々のペースに合わせ過ぎてもらえるよう支援している。外出、入浴は出来る限り希望に添い無理強いはない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容の声かけ、介助を毎日行っている。外出時の洋服選びなどの自己決定のお手伝いをしたり、ほぼ定期的に理美容室に出向いたりホームにきてもらったりして身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し嫌いなものは差し替えて提供している。嚥下の状態に合った形態にして食べやすい工夫をしている。食事の準備、片付けはその方の力や希望に応じてしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方が必要とする食事量、水分量を把握する為医師、看護師から指示を頂き、その方に合った食事形態、好みの飲料等で確保できるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声を掛けてうがいや歯磨きをして頂き口腔内の清潔を保つよう取り組んでいる。夜間は義歯を外し義歯洗浄剤に浸し汚れを落としている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用が減るよう一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄チェック表で確認しながらトイレへの促しを行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い水分や食事量のチェックを行っている。便秘の原因や及ぼす影響を理解しスムーズな排便があるよう水分、食事に配慮すると共に頑固な便秘は医師に相談し下剤を処方して頂いている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	余裕を持ち前もって声を掛け入浴をして頂いている。気分が乗らない方は無理強いせず別の日にお誘いしている。毎日入りたいと希望される方がおり希望に添っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安な気持ちを持っている方にはしっかりと話を聞き不安を取り除いてから休んで頂くよう支援している。又、昼寝を希望される方、必要な方には適度な時間休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、職員同士で確認を行ってから間違いの無いよう服薬して頂いている。目的、副作用、用法、用量については都度職員に伝え周知している。服薬不可能な状態の時は医師の指示の下時間をずらして服用又は破棄している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割とされている方に食器拭きや洗濯物を畳むお手伝いをして頂いている。好きな本を読んだり書写の時間を設けたりビデオ鑑賞するなど楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方は殆どいないが、暖かい日には近隣に散歩に出かけたり、外食のレクレーションを楽しんで頂いている。ご家族と温泉旅行に行かれる方やご自宅へ帰られる方もいます。気候の良い時には近隣のスーパーに買い物同行の支援も行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の入居者は現金を所持していないが少数の入居者は所持しておりご本人が買い物したいと希望されたときに使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から荷物や誕生日のプレゼント等が送られてきた時など電話や手紙で感謝の気持ちを伝えられるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔にする事を心がけ入居者に不快感を持たせないように配慮している。トイレは3箇所のうち2箇所はリビングから離れており静かに利用できる。リビングには花を活けたり壁に季節の飾りつけをしている。その都度行事の写真を貼りかえて楽しんで頂いている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの片隅や廊下の所々に椅子やテーブルを置き好きな場所で寛いだり歓談できるスペースを設けている。和室もリビングに隣接しており自由に使って頂いている。又入居者の状態を見て過ごしやすい席替えの工夫もしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や物を持ち込んで頂き、居心地の良い空間になる様努めている。入居者が不便を感じている様子が見られたら家族に相談し用意して頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日使うものは決められた場所に置き使用して頂く。又、安全に行動できるよう常に整理整頓を心がけている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	運営推進会・家族会は年6回程度開催しているがご家族の出席が殆どない為、家族同士の交流が中々持てない。又、このような会の中で意見や要望を聞く機会が少ない。	最低年に1~2回は複数のご家族に参加いただき情報交換や思い、悩みを話し合える機会を持てる。地域包括支援センターの職員や町内会長、民生委員ともお話しし、相談窓口が沢山あることで今以上に安心して頂きたい。	運営推進会・家族会を行事に合わせ参加してもらいやすいよう案内していく。仕事を持たれている方が多いので日曜、祝日の開催も検討していく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。